スウェーデン理解のための観光教育教材の開発
―「世界遺産ヴィスビー」「世界遺産ビルカ」「ガムラ・ウプサラ」を中心に―

Development of Tourism Education Materials to Understand Sweden: Visby,Birka and Gamla Uppsala

田　部　俊　充
TABE Toshimitsu

［**Abstract**］I have been conducting a project on the Development of Tourism Education Materials to Understand Sweden,Visby,Birka and Gamla Uppsala,for Undergraduate Programs,Upper Secondary School Geography and History Education.

【概要】本稿はスウェーデン理解のための観光教育教材の開発を目的としている。日本女子大学公認海外短期研修や高校の地理歴史科授業を充実させるための観光教育教材を，「世界遺産ヴィスビー」「世界遺産ビルカ」「ガムラ･ウプサラ」の現地調査を踏まえて開発した。「世界遺産ヴィスビー」では，ゴッドランド歴史博物館，ウプサラ大学ゴッドランド校の現地調査を通じて，8 世紀末からはじまるヴァイキング時代から中世には貿易港としての繁栄があり，それはローマ，ギリシアからイスラム文化までの影響をうけており，交易範囲の広さを明らかにした。「世界遺産ビルカ」では世界各地のコインをはじめビルカが交易の中心であった痕跡を確認した。「ガムラ･ウプサラ」ではガムラ・ウプサラ博物館において家屋の模型の展示からヴァイキングの人びとの世界観を知った。その他に「オスロ市ヴァイキング船博物館」の訪問においては高校世界史教科書･資料集でも取り上げられるオーセベリ船，ゴクスタ船，トゥーネ船として知られる三隻のヴァイキング船の展示を確認することが出来た。

Ⅰ　はじめに

本稿はスウェーデン理解のための観光教育教材の開発を目的としている。日本女子大学では大学公認海外短期研修を実施しており，2016 年度（2017 年 3 月（第 1 回））に 36 名，2017 年度（2017 年 9 月（第 2 回））に 23 名，2018 年度（2019 年 3 月（第 3 回））は全学で 63 名の参加者を得た。2017 年には，スウェーデン・ウプサラ大学教育学科と本学が協定校提携を結び，学生の留学や教員間交流も進んでいる。また共同研究として就学前教育から高等教育までの調査内容を ESD の視点でまとめた（田部ほか 2017a）。ESD の現状として，国，地方･学校レベルの政策レベルで，地球環境の「持続可能性」を全面に打ち出していることから ESD にも取り組みやすい教育環境があることが明らかとなった。

今後の交流を深めていくためには相互交流とともに多様な研究の進展が欠かせない。そこで，本稿においては，従来の研究に加えて大学公認海外短期研修の事前学習で実施しているスウェーデン理解の講義のための観光教育教材の開発を行った（田部 2017b, 田部 2017c）。具体的には高校地理歴史科に関連する内容を中心に，スウェーデン理解のための観光教育教材として「世界遺

産ヴィスビー」「世界遺産ビルカ」「ガムラ・ウプサラ」の現地調査を中心に教材開発を行った。ここでいう観光教育とはホテルマンや旅行代理店の職員研修のような実務教育ではなく，小学校から大学に至るまでの学校教育における観光教育で，今回のような大学の海外研修や高等学校の地理歴史科の授業の充実につなげたいと考えた（寺本・澤 2016, 田部 2018）。

さて，日本でスウェーデンのイメージとして真っ先に思い浮かぶのはスタジオジブリ制作，宮崎駿監督のアニメーション映画『魔女の宅急便』（1989 年）の舞台のイメージではないだろうか[1)]。また，筆者は子どもの頃，ヴァイキングが主人公でスウェーデンの作家ルーネル・ヨンソンの児童文学シリーズが原作のアニメ『小さなバイキングビッケ』（1974～75 年，フジテレビ）が印象に残っている[2)]。主人公ビッケはバイキング･フラーケ族の族長ハルバルの息子という設定で，ヴァイキングの遠征の行く先々で出会う事件や困難を小さなビッケの知恵で見事乗り越えていく。そのユーモラスで行動力のあるビッケに北欧のイメージが重なっていた。最近では幸村誠による漫画『ヴィンランド・サガ』（VINLAND SAGA）[3)] が注目されている。2019 年 7 月より NHK 総合にて放送された。筆者は初回の 1 シーンを見たが，「この時代，ヨーロッパの海という海，川という川に出没し，恐るべき速度で襲撃と略奪を繰り返す北の蛮族ヴァイキングは，人々の恐怖の的だった。その日も，とあるヴァイキングの集団がフランク領主同士の小競り合いに乗じて包囲されていた都市を瞬く間に落とし，蓄えられていた財貨を残らず奪い去っていった」というプロローグにも示されるように，残忍なシーンが多かった。

『魔女の宅急便』『小さなバイキングビッケ』と『ヴィンランド・サガ』とのあまりにも違うスウェーデンのイメージ，スウェーデン理解，とりわけヴァイキング理解に戸惑い，ヴァイキング理解を切り口にしてどのようなスェーデンのイメージ，スウェーデン理解がより実態に近いのか，地理的見地と歴史的見地により現地調査を踏まえて検討した。

Ⅱ章では「ガムラ・ウプサラ」「ヴァイキング（ノルマン人）」の関連する文献，地理歴史科高校教科書及び資料集を整理した。Ⅲ章では世界遺産ヴィスビー，ストックホルム・ヴァイキング博物館，世界遺産ビルカ，オスロ市ヴァイキング船博物館，ガムラ・ウプサラ博物館の現地調査を中心に整理した。

Ⅱ　「ガムラ・ウプサラ」「ヴァイキング（ノルマン人）」の地理歴史科教科書関連記述

（1）ガムラ・ウプサラ

5 世紀から 6 世紀なかばまで，スウェーデンは民族移動期とされている。民族移動期には一部に環状集落が出現し，スウェーデン中部では砦も急増したことから，これらの地域で社会的緊張が高まったと思われ，その最大の要因は地方的権力の台頭である，とされる。これら権力者のための大規模な墳丘墓が築造され，もっとも有名なのがスウェーデン中部のガムラ・ウプサラ古墳群であった（ヒースマン姿子 1998:20）。

キリスト教以前の北欧は多神教であり，ソール，オージン，フレイなどの神々が信仰されていた。1070 年頃の記録によるとガムラ・ウプサラ神殿にはソール，オージン，フレイの像があり，飢饉の際にはソール神，戦勝のためにはオージン神，結婚祝いにはフレイ神が信仰された。キリスト教の神ははじめ北欧人にとって新しい神の一人と受けとめられたが，一神教のキリスト教の

排他性のため，キリスト教布教は土着の神々を信仰する人々との対決となった。地域の豪族の権威と戦って中央権力として成長しつつあった王権は，キリスト教を援助し教会と同盟した。キリスト教化は王権による王国の形成・統合の過程と密接に結びついていた。普遍宗教であるキリスト教は統一をめざす王権に，土着の神々を信仰する人々とたたかう統一イデオロギーを提供した（熊野 1998a:54）。

キリスト教の神ははじめ北欧人にとって新しい神の一人と受けとめられた。つまり，中世の初め頃，キリスト教はヨーロッパ全土に広まってからかなり年月を経ていたが，スカンジナビアではまだ異教の神々が信仰を集めていたのである（コア 1993:110）。

結果的に北欧で土着の神々を信仰する多神教の影響力がもっとも遅くまで残ったのはスウェーデンであった。10 世紀末以来歴代の王はキリスト教徒であったが，王位継承にもかかわる政治的中心地ウプサラは多神教の中心地でもあった。12 世紀初めにようやくキリスト教側が勝利し，多神教の中心地であったガムラ・ウプサラにキリスト教会が建設された。1245 年にガムラ・ウプサラの大聖堂が焼失したため，交易中心地であった現在の地にウプサラ大聖堂が移転する。

（2）ヴァイキング（ノルマン人）

8 世紀末に，ヴァイキング時代が始まる。ヴァイキング＝入り江に住む人々という意味がある。著者にとっては意外なことであったが，ヴァイキングの多くは，漁民ではなく農民であった。初期の指導者であった豪族の多くは農民の上層であった。ヴァイキング遠征は，豪族の指揮のもとに豪族の家人や周辺農民の子弟が乗組員として乗り込んだ。進出・交易の目的は豪族としての権威を高めることと，故郷の農場で不足する生活必要物資の調達であった。ヴァイキングは，ノルマン人と同義で用いられ，イギリス，ロシア，南イタリアの両シチリア王国（1130～1860 年）など，西欧，ロシア，地中海の周辺諸国の国家建設に結びついていく。図 1 の高校世界史資料集に掲載されている「ヴァイキング（ノルマン人）の進出」では，クイズ Try2 でノルマン人の活動範囲が内陸に及んでいる理由を聞いている。②の「船底が浅く内陸の河川をさかのぼるこができるため」が解答であるが，ヴァイキングがもともと農民ならば納得できる。図 1 のヴァイキング（ノ

図1　ヴァイキング（ノルマン人）の進出（『明解世界史図説』帝国書院より）

ルマン人）の船は後述するオスロ市ヴァイキング船博物館に展示されているオーセベリ船でノルウェーヴェストフォル県において 1904 年に発掘されたものであった。

現在の「スウェーデン」の成立は 19 世紀初めであるが，その政治的統合体としてのスウェーデンの概念はほぼヴァイキング時代に形成された，とされている。ヴァイキング活動年表でスウェーデンのヴァイキングとしてはっきり示されているのは，10 世紀末のウプサラのエーリック「勝利王」（？- 990 年代）が西欧から帰還しようとするヴァイキングを破ったフューリスヴァッラナの戦い（980 年代）の記録である（熊野 1998a:42）。

スウェーデンのヴァイキングのおもな活動方向は東方であった。図 2 は高等学校世界史資料集におけるヴァイキング（ノルマン人）の進出「第 2 次民族移動（9 ～ 11 世紀）」の記述である。

図 2 の地図で示されているように，ノヴゴロドやキエフ，コンスタンティノープルとのつながりがあった。図 2 の④に示されているイスラーム諸国の貨幣は，メーラレン湖周辺やゴットランドで出土した大量の銀貨であるが，地図からわかるように広い範囲で東方交易が行われていた（熊野 1998a）。

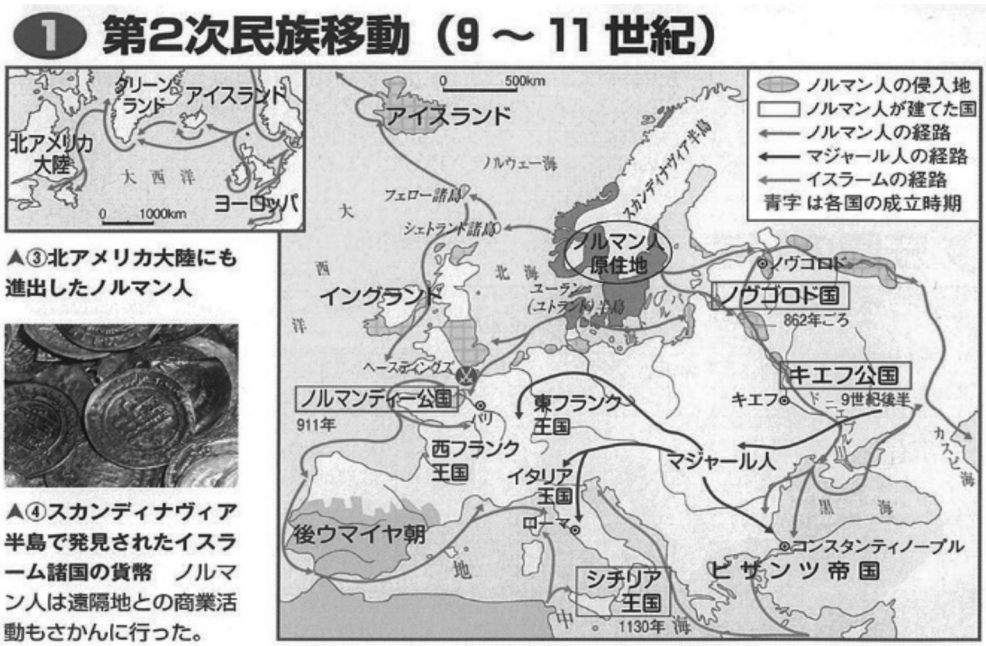

図2　第２次民族移動（9 ～ 11 世紀）（『明解世界史図説』帝国書院より）

Ⅲ　現地調査

1）世界遺産ヴィスビー

2019 年 9 月 3 日，世界遺産ヴィスビーを訪問した。飛行機から見たゴットランド島は意外にも農地が多かった。ゴットランドの人口は 5 万 7000 人，ヴィスビーの人口は 2 万人，島の面積は 3140 ㎢で南北 140 ㎞，東西 50 ㎞あり，主な産業は観光と農業である。地理的に冷戦期より防衛の要となっており，近年の国際情勢の不安定化のために軍備強化が図られている[4]。

ヴィスビーの市街地は空港から車で 15 分ほど，ヴァイキング全盛時代から交易の中心地として栄えた島で，中世の栄華が感じられる街で，宮崎監督一行が惚れ込んでしまったのが目に浮か

ぶようである。ヴィスビーの中心地は全長 3.6 ㎞に及ぶ石灰岩で造られた強固な城壁が取り囲んでいる。高さは 11 メートル，長さは 3.5 ㎞で町を取り囲む。大きな門だけでも，北・東・南に 3 つある。市街壁内は勾配のきつい傾斜地になっている。中世からの遺跡の多くがほとんどそのままの状態で残されている。(Gotlands Museum2017:10-11)。

写真 1

西暦 1000 年頃よりスウェーデンの中部以南とデンマークでは穀物生産が農業の中心になりはじめた (熊野 1998b: 66-67)。ゴットランド島には 1500 ほどの農場があり，ヴァイキング時代末からハンザ同盟の時代も現在もその数は変わらない。ヴィスビーの農場には羊がよく飼われていたことを示すように通りの入り口に置かれる羊の置物が置かれており，市の紋章も羊であった (写真 1)。

ヴァイキング時代の北欧は，西欧とビザンツ・イスラム圏との交通を北回りで媒介する役割を持っていた。ゴットランド島は，メーラレン湖のビルカとともに，この遠隔交易網に位置していた。交易・略奪には農民的豪族と王が関与した (熊野 1998b: 77)。

メーラレン地域からバルト海をこえて東岸と東南岸に利害をもつスウェーデン王権とバルト海南岸を東進するデンマーク王権とは衝突し，ゴットランドなどバルト海の島々も含め，争奪戦がおこなわれた。中世のバルト海地域で展開した政治史には，バルト海商業をめぐる農民的豪族，諸国の王権およびドイツ・ハンザと北ドイツ諸侯国の利害が複雑に絡み合っていた。

1350 年にバルト海をペストが襲い，その 11 年後ゴットランド島はデンマークに全体を占領される。ヴィスビーはハンザ同盟から外れ，富から見放される。加えて，ドイツ人がラトヴィアとエストニアに入植し，ハンザ同盟の一員とした。ノヴゴロドに向かうドイツ商人はゴットランド島には寄らなくなり，中継基地としての存在意義を失った。このようにしてヴィスビーの経済は完全に息の根を止められ，廃虚の町となる。現在市街壁内に残る教会は，ドイツ商人たちの教会として立てられたサンタ・マリア大聖堂 (1225 年) のみである。

スウェーデンの国民的作家であるセルマ・ラーゲルレーヴは原題『ニルス・ホルゲルソンのふしぎなスウェーデン旅行』として 1906～07 年に執筆し，日本では『ニルスのふしぎな旅』として児童文学の古典的名作として紹介される (村山 2005)。セルマ・ラーゲルレーヴはヴィスビーのハンザ同盟時代の姿を「栄華をきわめたヴィネタ」とし，執筆当時のヴィスビーの姿を「美しい廃墟の町」と描いている。

写真 2

聖マリア大聖堂は唯一残る中世時代からの教会で，ゴシック様式の建築である。1225 年に創建，増改築を繰り返して現在に至る。美しいステンドグラスが有名である (写真 2)。ガムラ・アポテケットは目抜き通りストランドガータン

とリューブスカグランドの角に立つ建物。中世の頃は薬局だった。

ウプサラ大学は 1477 年に創設された北欧最古の大学であるが，ウプサラ大学ゴッドランド校はゴッドランド大学を改組しているが，教育学科，社会・経済地理学科などを含む（写真 3）

写真３

ゴッドランド歴史博物館にはルーン文字の展示，古代人の遺骨やヴァイキング時代の多くの異文化との交易を示す品々，ハンザ同盟時代の遺品などを見ることができた（写真 4）。ラテン文字がスカンジナビアにもたらされる以前，西暦 1000 年以前のヴァイキング文化を案内してくれるのはルーン文字である。北欧神話のオーディンが創ったという伝説を持つルーン文字は石に彫り込まれ，妖術，魔術，超自然現象，神秘と結びついて，北欧人に畏怖の念を起こさせた。ルーン文字を一般に使用していたのはゲルマン人で，ヨーロッパ大陸全体にその痕跡を見ることができる（コア 1993:158）。死者の生前事績を記念するルーン文字の記されたルーン石碑は，北欧，とくに中部スウェーデンにみられた。埋蔵されていたものとして，銀（銀貨とくにイスラム貨幣，延板，腕輪）を中心とする財貨が地中に隠され，後世に発見されている（熊野 1998a: 34-35）。

写真４

ヴィスビーには 8000 年前にはすでに人が住んでいた痕跡がある。ヴァイキング時代から中世へと貿易港としての繁栄を築き上げていった。ローマ，ギリシアからイスラム文化までの影響をうけており，交易範囲の広さを感じた。歴史博物館のハンザ時代を再現した展示室には，当時ゴットランド島で納められた税金の 45 倍に相当する金額が毛皮に支払われた記録が残っていた。

ゴッドランドの商人は，北ロシアのノヴゴロドに商館を持ってバルト海東部の毛皮取引にかかわり，北海にでてイングランドやノルウェーと交易するなど，バルト海全域とその周辺を縦横に航海した。北欧各地の豪族は，自分の本拠農場や周辺部の生産物をゴットランド商人その他がおこなう遠距離商業に結び付けた（熊野 1998b: 81）。ゴッドランド歴史博物館の記録によると，ストックホルムからは鉄や銅，デンマークからは牛のなめし皮，ノルウェーからは鱈の干物，ドイツから塩などが集まり各地に運ばれていった。このようにして，ハンザ商人だけでなく，島全体が裕福になり，スウェーデン全体で納める税金と同じ額をゴットランド人は数人で納めていたことになる。

（２）ストックホルム・ヴァイキング博物館

2019 年 9 月 4 日，ストックホルム・ヴァイキング博物館を訪問した（写真 5）。ユールゴーデ

ン島のヴァーサ号博物館の近くに位置する。10世紀前後のヴァイキング時代の航海のルート（写真6）やジェットコースターのような乗り物ライドという体験型施設が興味深い。生活の様子の展示では，コートを作るためのビーバーやリスの毛皮が展示されていた（写真7）。

北欧の各地に割拠する豪族たちはヴァイキング時代以前から，北欧内部やバルト海沿岸地方での略奪遠征や遠くローマ世界での傭兵勤務などをおこなってきた。ヴァイキング遠征は，豪族の指揮のもとに，豪族の家人や周辺農民の子弟を乗組員とした。スウェーデンでは舵取りを含めて25人の漕ぎ手＝戦士をもった（熊野1998a: 26-27）。

写真5

写真6

写真7

（3）世界遺産ビルカ

2019年9月5日，世界遺産「ビルカ」を訪問した。ストックホルムの西側に広がるメーラレン湖のビョルケーに遺跡が残されている。ヴァイキング時代，貿易と布教を軸にスウェーデン王国に繁栄をもたらした都市である。ストックホルム市庁舎の近くから船が出ていて，フェリーで約1時間45分である。ストックホルム9時30分発，ビルカ着11時15分，帰路はビルカ発14時30分，ストックホルム着16時15分であった。「ビルカ」は「黒」を意味し，ビョルケー島にある。町が黒土層で，土地利用によって土壌が黒ずんでしまったことに由来している。今回は訪問出来なかったが，世界遺産「ホーヴゴーデン」は近隣のアデルスユー島にある。

ビルカは北欧におけるキリスト教布教の拠点となる。834年，アンスガルAnsgar（のちにハンブルク＝ブレーメンの大司教となる）が皇帝ルードヴィヒの命を受け820年代と50年代の二度にわたってデンマーク，スウェーデンを訪れ，スウェーデンにキリスト教が布教された（熊野1998a: 52-53）。アンスガルはデンマークとスウェーデンの王たちの援助を受け，ビルカに教会を立て，改宗者を得たが，異教徒側の反撃にあって撤退した。アンスガルは後年「北欧の使徒」と評される。ビルカの高台にある要塞跡にアンス

ガル訪問 1000 年を記念した 1834 年に設置された碑がのこる（写真 8）。

世界各地のコインをはじめ，多くの遺物や組木などが出土している。スウェーデン最大の共同墓地跡があり，墓からはビザンチンやオリエント製お飾り，留め金が発掘。ヴァイキングの豪華な装いがうかがえる。

特筆すべきは墓地の存在で，城壁の東側は 2500 基にも及ぶ墓があるとされる。この地域にはルーン文字が刻まれた墓石が残っている。ビルカのヴァイキング博物館には当時の街がリアルに再建されており，かつてヴァイキングたちがどのような生活をして，どれだけ繁栄していたのかを知ることができる（写真 9）。

写真 8

写真 9

（4）オスロ市ヴァイキング船博物館

2019 年 9 月 6 日，ノルウェー・オスロ市にあるヴァイキング船博物館を訪問した（写真 10）。館内にはオーセベリ船（Osebergskipet），ゴクスタ船，トゥーネ船として知られる三隻のヴァイキング船，これらの船と同時に発掘された埋葬品が展示されていた。

現存するもっとも保存のよいヴァイキング船の例とされているのがオーセベル船である。航海に適しているとはいえ，オーセベル船は比較的脆弱であり，櫂を推進力とし，内陸水系と沿岸公開用であった。9 世紀末に竜骨の採用によって横波にたいして安定性の高い構造が獲得され，一本マストと一枚横帆によって遠洋航海が可能となった（熊野 1998a: 37）。

オーセベル船は，全長は約 21.58m 幅 5.10m，マストは 10m 前後で想像以上に大きかった（写真 11）。約 90 ㎡の帆が張られ最速 10 ノットで航行可能だった。また 15 対のオール穴があり 30 人で漕げた。

写真 10

舳先にはドラゴンの模様が特徴的である。ドラゴンには海の悪霊をしりぞける霊力があると考えたヴァイキングは，舳先と船尾をドラゴンで飾った（コア 1993:79）。船の船首と船尾はオーセベル様式として知られる特徴的な「握り獣（gripping beast）」様式の複雑な木彫りで念入な装飾がほどこされていた（写真 12）。

ノルウェー・ヴェストフォル県トンスベルグ近郊のオーセベリ農場の大きな墳丘墓から発見された。オーセベリ墳丘墓には多くの副葬品

と 2 人の女性の遺骨が埋まっていた。船が埋められたのは 834 年以降である。オーセベリ船は 1904 年にノルウェー人考古学者ホーコン・シェテリークとスウェーデン人考古学者ガブリエル・グスタフソンによって発掘された。

1904 年の発掘で 2 人の女性の遺体と多くの日常品や遺物が発見された。4 台のそり，4 輪車，ベッドの柱，木製の箱があった。道具類も見つかった。発見された織物にはウールの衣類や舶来品の絹，幅の狭いタペストリーも含まれていた。オーセベリ船には *Buddha bucket* と呼ばれる手桶があった。また仏陀と思われる彫像が取り付けられていた。ゴクスタ船は 1880 年にヴェストフォル県サンデフィヨルドのゴクスタ農地の船葬墓から発掘され，こちらも全長 24 メートル程度で，博物館の三隻の中では最大で大きかった（写真 13）。ヴァイキングたちの優れた造形技術が垣間見られる。トゥーネ船はゴクスタ船をまねて作り，大西洋を縦断したヴァイキング船である。

写真 11

写真 12

写真 13

（5）ガムラ・ウプサラ博物館

2019 年 9 月 7 日，ウプサラ市にあるガムラ・ウプサラ博物館を訪問した（写真 14）。ウプサラ市街からバスで北へ 20 分ほど走ったところにある。古い建物のように見えたのは，ヴァイキングの家をイメージしてのことであった。スカンジナビア全土とアイスランドには，今日でも伝統的な「ロングハウス」の遺跡を見ることができる。ロングハウスには部屋がひとつしかなく，その長さは約 12m である。石の土台の上に乗せられた屋根は少し湾曲している。初期の頃には船をひっくり返して屋根にしたといわれているが，その名残を思わせる。2 列の柱がこの屋根組みを支えている（コア 1993:102）

新石器時代後期（前 1800～）の時期になると，ロングハウスの原型ともいえる，長さ 10m 近い掘立柱の住居も立てられるが，家屋の模型の展示からヴァイキングの人びとの世界観が見て取れる（写真 15）（ヒースマン姿子 1998:16）。青銅器時代になるとロングハウスがより多機能的になり，個別家族の自立性が増したためと考えられている（ヒースマン姿子 1998:23）。

三連の小高い墳墓の古墳がある（写真 16）。ここがガムラ・ウプサラである。手前から西，中央，

東墳丘墓と呼ばれ，500 年から 550 年頃築造された。さらにつながっている。

北欧で土着の神々を信仰する，異教の影響力がもっとも遅くまで残ったのはスウェーデンであった。10 世紀末以来歴代の王はキリスト教徒であったが，王位継承にもかかわる政治的中心地ウプサラは，異教の中心地であったため，9 年に一度のガムラ・ウプサラの大犠牲祭の司祭役を務め続けた。12 世紀初めにようやくキリスト教側が勝利し，異教の中心地であったガムラ・ウプサラにキリスト教会が建設された。1245 年にガムラ・ウプサラの大聖堂が焼失したため，交易中心地であった現在の地にウプサラ大聖堂が移転する（熊野 1998a:53-54）。

写真 14

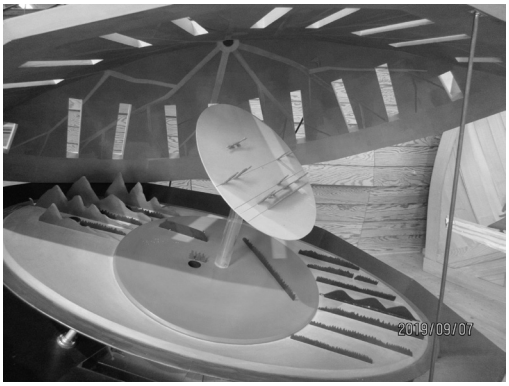

写真 15

写真 16

Ⅳ　今後への示唆

本稿においてはスウェーデン理解のための基礎的研究のために，関連する文献，地理歴史科高校教科書及び資料集を整理した。まず，「ガムラ・ウプサラ」「ヴァイキング（ノルマン人）」「ハンザ同盟」等の関連する文献，地理歴史科高校教科書及び資料集を整理した。次に世界遺産ヴィスビー，ストックホルム・ヴァイキング博物館，世界遺産ビルカ，オスロ市ヴァイキング船博物館，ガムラ・ウプサラ博物館の現地調査を中心に整理した。

今回のスウェーデンのゴットランド島博物館，ストックホルム・ヴァイキング博物館，ビルカのヴァイキング博物館，ガムラ・ウプサラ博物館，ノルウェーのオスロ市ヴァイキング船博物館や世界遺産ビルカの現地調査を通じてあらためて感じたのは，ヴァイキングが活躍したのは 8 世紀からとそれほど昔ではなく，現在のスウェーデンの骨格はヴァイキング時代に形成された，という点である。

ヴァイキングというと，角の生えた兜をかぶって盾と斧をもち，豊かに髭を蓄えた荒々しい男たちというイメージが強い。たしかに彼らは暴力的で，川をどこまでも遡っては，ヨーロッパ大陸の人々を震え上がらせていた。しかしそれは，裏付けの乏しいステレオタイプで，実際のヴァイキングは高度な社会を築き，地中海や黒海まで出かけて，精力的に交易に励んでいた。10 世紀に入り土地の隆起による交易路の変化などで交易の優位性が失われる。これは，ヴァイキング

時代の終わりと中世の到来を意味する。

筆者は，北欧の少数民族サーミ族の迫害を扱った映画『サーミの血』（2016 年，スウェーデン・ノルウェー・デンマーク）を題材にして観光教育教材を考えたことがある（田部 2017d）。高校地理教科書・資料集における少数民族の扱いを整理し，地域を固定的にとらえてしまうと，表面的でステレオタイプ的な文化理解に陥りやすく，国際的課題の解決には寄与しないので工夫として映画教材の活用を考え，多様性の観点からの再考を論じた。今回の調査とその成果もスウェーデン理解の多様性に寄与できれば幸いである。

謝辞　本研究の実施にあたっては一般財団法人日瑞基金の支援をいただいた。ここに記して御礼申し上げる。また，浅野由子氏（ウプサラ市マルマバッケ就学前学校教諭・日本女子大学非常勤講師・学術研究員），エドヴァード・フリートウッド氏（瑞日基金）をはじめ，資料収集の際に協力してくださったすべ ての方々に厚く御礼申し上げる。

注

1）『魔女の宅急便』（1989 年）は観客動員数 264 万人，配給収入 21.5 億円と前作である『となりのトトロ／火垂るの墓』の 3 倍以上を記録した。1978 年（昭和 53 年）公開の『さらば宇宙戦艦ヤマト 愛の戦士たち』の記録を抜いて日本のアニメーション映画の興行記録を更新している（角野・宮崎（1989））。

魔女の宅急便の企画は 1987 年春であるが，宮崎駿監督はこの作品のために本格的なロケハンを実施している。作品の発案は宮崎氏で，舞台がヨーロッパ，無国籍であるが，「日本の女の子たちがなんとなく思い描いているヨーロッパを絵の中に実現したい」ことから，宮崎氏はスタッフ 5 名とともに，約 8 日間，ストックホルムとゴットランド島のヴィスヴィーに滞在し，町並みや家々など，風景を中心にした写真を撮影し，資料を収集している。物語の舞台となるコリコの町は，主にストックホルムのイメージで描かれているが，メイン・ストリートなどはパリのにぎわいが投影され，裏通りはストックホルムの下町のガムラスタンの町並みがモデルである。コリコの町の城壁のイメージや背景となる風景はヴィスビーの雰囲気そのものがいかされている，とされている。

2）『小さなバイキングビッケ』公式ホームページ（http:/ www.vicke.ne.jp/　2019 年 9 月 28 日閲覧）には登場人物やストーリーが詳しい。

3）TV アニメ「ヴィンランド・サガ」公式サイト（https://vinlandsaga.jp/　2019 年 8 月 28 日閲覧）。11 世紀初頭の北ヨーロッパ及びその周辺を舞台に繰り広げられるヴァイキングたちの生き様を描いた時代漫画である。ヴィンランドは北アメリカ大陸にあったとされるヴァイキングの入植地のひとつで，主人公のトルフィンは 11 世紀に実在したと言われるアイスランド商人ソルフィン・ソルザルソンをモデルとされている。

4）軍事非同盟を貫いて 19 世紀から他国と戦火を交えずにきたスウェーデンが，ロシアの脅威の高まりを受けて，軍備強化へと方針を一変させた。島部に常駐軍を再配置し，7 年前に廃止した徴兵制を復活させる。北大西洋条約機構（NATO）の加盟申請も現実味を帯び始めた。ロシアによるウクライナ南部クリミア半島併合などを受けて，スウェーデン政府は 2015 年，16～20 年の 5 年間の軍事費をそれまでの 5 年間に比べて 170 億クローナ（約 2310 億円）増やし，総額 2240 億クローナ（約 3 兆 480 億円）とする方針を発表した。ゴットランド島への常駐軍の再配置は目玉施策の一つだ。島は 100 年以上前から軍の演習地として使われ，冷戦期は数百人規模が駐屯した。だが 2004 年に駐屯部隊は引き揚げた。7 月の正規軍の配置を前に国内各地の中隊が昨年 9 月から持ち回りで島周辺の防衛を担った。新たに約 8 億クローナ（約 110 億円）かけて基地を再建する（朝日新聞デジタル 2017 年 8 月 7 日）。

文献

コア，I. 著，久保実訳（1993）:『ヴァイキング―海の王とその神話』，創元社，190p.
角野栄子・宮崎駿（1989）『魔女の宅急便―メモリアルコレクション―』，徳間書店，164p.
熊野聰（1998a）: ヴァイキング時代，百瀬宏・熊野聰・村井誠人編『北欧史』，山川出版社，pp.25-57.
熊野聰（1998b）: 内乱と王権の成長，百瀬宏・熊野聰・村井誠人編『北欧史』，山川出版社，pp.58-90.
寺本潔・澤達大編著（2016）：『観光教育への招待―社会科から地域人材育成まで―』，ミネルヴァ書房，178p.
田部俊充・浅野由子・請川滋大・高野由美子・定行まり子・薬袋美奈子・加藤美由紀（2017a）: スウェーデンにおけるESDの取り組み ―ウプサラ大学との研究教育協力・連携を目指して―. 日本女子大学人間社会学部紀要，27，pp.71-85.
田部俊充（2017b）：世界地図紀行 1　水の都ストックホルムで地球環境問題について考える．地図情報（一般財団法人地図情報センター），36（4），pp. 38-43.
田部俊充（2017c）: 世界地図紀行 2　古都ウプサラでスウェーデンと日本とのつながりについて考える．地図情報（一般財団法人地図情報センター），37（1），pp.30-35.
田部俊充（2017d）:「地理総合」と国際理解・国際協力―企画趣旨・少数民族を扱った映画から考えたこと－，新地理（日本地理教育学会学会誌），65（3），pp.101-105.
田部俊充（2018）: 高校新設科目「地理探究」と観光教育－企画趣旨・観光教育実践の試行から考えたこと―，新地理（日本地理教育学会学会誌），66（3），pp.69-72.
ヒースマン姿子（1998）: 北欧の先史時代，百瀬宏・熊野聰・村井誠人編『北欧史』，山川出版社，pp.15-24.
村山朝子（2005）:『『ニルス』に学ぶ地理教育―環境社会スウェーデンの原点―』，ナカニシヤ出版，166p.
Gotlands Museum（2017）:Visby - like a Pearl in the Baltic Sea, Visby - *wie eine perle in der Ostsee*, Gotlands Museum .95p.

写真リスト

写真 1　通りの入り口に置かれる羊の置物。ゴッドランド島の農場には羊がよく飼われていた。2019 年 9 月 3 日撮影
写真 2　聖マリア大聖堂。美しいステンドグラスが有名である。2019 年 9 月 3 日撮影
写真 3　ウプサラ大学ゴッドランド校。教育学科，社会・経済地理学科などを含む。2019 年 9 月 3 日撮影
写真 4　ゴッドランド歴史博物館にはルーン文字の展示。2019 年 9 月 3 日撮影
写真 5　ストックホルム・ヴァイキング博物館の外観。2019 年 9 月 4 日撮影
写真 6　10 世紀前後のヴァイキング時代の航海のルート。2019 年 9 月 4 日撮影
写真 7　ヴァイキング博物館: 生活の様子の展示。2019 年 9 月 4 日撮影
写真 8　聖アンスガーのビルカ訪問（834 年）から 1000 年を記念して 1834 年に設置された碑。2019 年 9 月 5 日撮影
写真 9　ビルカ：ヴァイキング博物館。2019 年 9 月 5 日撮影
写真 10　オスロ市ヴァイキング船博物館の外観。2019 年 9 月 6 日撮影
写真 11　オーセベル船は，全長は約 21.58m 幅 5.10m 。2019 年 9 月 6 日撮影
写真 12　オーセルバルク船の舳先のドラゴンの装飾。2019 年 9 月 6 日撮影
写真 13　ゴクスタ船。2019 年 9 月 6 日撮影
写真 14　ガムラ・ウプサラ博物館の外観。2019 年 9 月 7 日撮影
写真 15　ヴァイキングの人びとの住まいの世界観。2019 年 9 月 7 日撮影
写真 16　ガムラ・ウプサラは小高い墳墓の古墳がつながっている。2019 年 9 月 7 日撮影